

令和 7 年 3 月

保護者・地域・関係の皆様

世田谷区立八幡小学校

校長 阪田 敦子

令和 6 年度学校関係者評価結果報告書に基づく令和 7 年度に向けた改善方策

令和 6 年度学校関係者評価委員会より報告いただいた結果報告書を受け、令和 7 年度の学校運営改善方策を報告いたします。

1 アンケート回収率について

アンケート回収率は昨年度 69.3%、今年度 73%と若干の改善がみられました。学校運営に関心を高めていただき、アンケートに協力いただけるよう、引き続き充実した教育活動の実践、情報発信に努めてまいります。

2 学習指導について

全般的に児童、保護者ともに高い評価をいただくことができました。「黒板の書き方やプリントの工夫をしている」については、児童の評価は高いが、保護者の評価は昨年度よりも上がっているものの、「わからない」という意見が多いと報告をいただきました。学校公開や保護者会等を活用し、保護者の皆様にも学習の様子を知っていただける工夫を行ってまいります。

3 生活指導について

児童からは高い評価を得ることができましたが、保護者からは、厳しい評価をいただいた学年もありました。全教職員で指導方針や指導方法を共通理解し、チームで指導、対応し、子どもが理解し、納得できる伝え方や指導に改善してまいります。

4 学校行事について

児童、保護者ともに大変高い評価をいただきました。「先生は児童の意欲を大切にしている」の児童評価が高かったことは、本校の目指す児童の主体性の育成の成果であり、喜ばしい点です。地域からも昨年度よりよい評価をいただいた項目が多くなりました。地域の皆様には、学校行事をはじめ、学校の様子を知っていただけるように、学校だよりやホームページ等でお知らせを続けてまいります。一方で、一部の学年の保護者からは否定的な評価をいただいていることから、全教職員で指導方針や指導方法を共通理解し、チームでの学校運営を行ってまいります。

5 キャリア教育について

児童の評価が高く、キャリアパスポートの活用等が児童の認識につながってきたことを成果として報告いただきました。一方で、保護者の評価は低学年を中心に「分からない」という回答が多く、認知がすすんでいないことが分かりました。今後は保護者の皆様にも分かりやすく伝えていく工夫をしてまいります。「区立中学校に関する情報」に関する評価については、昨年度より肯定的な意見が増えてきたものの、まだまだ高い評価とは言えません。今後も八幡中学校と連携を深め、中学生の活躍の姿などに触れる機会を設定してまいります。

6 教員について

児童の肯定的評価が高く、児童と教員の信頼関係が築けているとの報告をいただきました。保護者からの評価も8割が肯定的評価で良好とのことでした。高学年の評価が高いことも特に評価をいただきました。一方で中学年の一部に否定的回答が見受けられたことから、学校全教職員で指導方針や指導方法を共通理解し、チームでの対応を行ってまいります。

7 全般について

児童の9割以上が「学校生活は楽しい」「学校が好き」と回答をしているという結果をいただきました。保護者からも全般的に肯定的評価が多く、本校の学校生活に満足している様子がうかがえるとの報告をいただきました。中学年の一部に「子どもにとって楽しい」の回答に否定的評価が多数みられたことについても、学校全教職員で指導方針や指導方法を共通理解し、改善をしてまいります。

「学び舎」という言葉自体に保護者の馴染みが薄く、地域学校運営学校の内容や目的を知らない保護者が多いと思われるというご指摘をいただきました。今後も周知の機会や周知の方法を工夫し、理解を深めていただけるよう努めてまいります。

「家庭で自主的に勉強している」の保護者評価が昨年度よりも低くなったことについて、宿題に対する考え方の変更の過渡期にあるので今後も長い目で見る必要があることのご助言をいただきました。子どもたちが家庭においても主体的に学びに向かうことができるよう、学び方や指導の工夫を重ねてまいります。

8 情報提供について

保護者の評価は、昨年度とほぼ変わらず問題ないとの報告をいただきました。一方、地域の評価は昨年度に引き続き「分からない」との回答を多くいただきました。学校だよりで十分お知らせしているとの評価をいただきましたが、学校公開に足を運んでいただくなど、地域の皆様に学校の様子を知っていただくための情報提供の方法の工夫を重ねてまいります。

9 学校運営について

保護者の評価は、全体として肯定的な評価をいただくことができたのですが、「学校の重点目標を伝えている」について、昨年度より若干低くなっているとのことでした。地域の評価は学校の対応に満足しているとの報告でした。次年度は、保護者、地域により分かりやすく、具体的に、学校の重点目標を示してまいります。

10 学校と家庭の連携について

学年差も少なく、全体として肯定的な評価で素晴らしいとの報告をいただきました。しかし、「学校の重点目標を理解している」についての肯定的評価が昨年度より低くなっているとのことでした。次年度は、保護者の皆様により分かりやすく具体的に学校の重点目標を示し、理解を深めていただけるよう努めてまいります。

11 地域との連携について

保護者、地域ともに、否定的意見は少ないが「分からない」が増えていると報告がありました。学校と地域が連携した教育活動を行っていますが、十分に周知できていないことが分かりました。情報発信の方法を工夫し、学校と地域との連携を深めると共に、保護者、地域の皆様の理解も深まるよう努めてまいります。

12 学校の安全性について

保護者、地域ともに、良好との報告をいただきました。今後も、避難所運営訓練等の自然災害時の対応をはじめ、年間に数回の情報発信を通して、学校の安全性について理解いただけるよう努めてまいります。

13 独自項目について

タブレットの使用方法については、児童は高い評価である一方、保護者の「タブレットやインターネットを正しく利用するために、話し合いや指導している」の評価が低く、指導できていないと感じる保護者が増えたと判断すると報告を受けました。タブレットやインターネットの利用については、学校と保護者が今後さらに連携、共通理解して児童に指導してまいります。

「言葉遣いの丁寧さ」について、一部の学年の保護者評価が低いことから学校全体の平均が低くなっているとのことでした。地域からは「子どもたちのマナー」については高評価を得ることができましたが、「挨拶をしている」の肯定的評価は7割にとどまったとのことでした。引き続き、挨拶や言葉遣い、ルールやマナーについて、丁寧な指導をくり返し、児童に身に付いていくよう指導してまいります。